

新潟教育会報

第76号

公益財団法人新潟教育会
(新潟教育会館内)

代表理事 高橋 雄一

〒950-8104

新潟市中央区西大畑町590番地3

TEL/FAX 025-222-2971

URL <http://kyouikukai.jp>E-mail 事務局 jimu@kyouikukai.jp研究所 kenkyujo@kyouikukai.jp

休館日 月曜日



講師プロフィール

兵庫県生まれ。東京大学大学院医学系研究科修了。

2009年、日本放送協会入局、2010年4月から2012年3月までNHK新潟放送局の「新潟ニュース601」のキャスターを担当。

2012年7月より福島県で大学研究員として、東日本大震災・福島第一原発事故被災地域の現地調査、復興支援活動に当たる。

現在、獨協医科大学国際疫学研究室福島分室助教として活躍中。

新潟県の魅力を県外に発信する『にいがた観光特使』にも委嘱されている。

平成26年度 夏季大学講座

26. 8. 10 (日)

朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター
マリンホール

「未来に何を伝えるか」

～現場からのメッセージ～

講師 小正裕佳子様

夏季大学講座に参加して

新潟市立東曾野木小学校

石塚 智久

私たちは福島県の現状をどれほど知っているだろう。人々の健康被害をはじめ、汚染水や除染など行き詰まっている問題も多い。小正氏は放射能の基本を知ることが考える基になるとして、教育現場との連携を訴える。福島県では、教師と専門家がチームとなり教材やカリキュラムの開発が進んでいるという。「今の段階で判断出来ないことが多いからこそ、自分たちでできることを続ける」という言葉が印象に残る。福島県の取組を活かし、教育現場に立つ私たちができることは多い。そう気付かされた御講演であった。

今、私にできることは

新潟市立巻西中学校

小林 直子

講演を聴き、小正さんの復興支援に対する思いの強さを感じた。「今は分からない。だから、測定し、記録して、学ぶ。」と、地域を巻き込み、積極的に活動されている姿には、大変感動した。

昨今、天災で多くの人命が失われている。私たちは、「自らの命をいかに守るか」その術を明らかにしておかなければならない。防災訓練はもちろんであるが、常に情報に敏感になり、見聞を広げ、いざというときの備えが必要である。改めて「命を守ることの大切さ」を生徒にも伝えていきたいと考えさせられた。